

# オリーブの会通信

2024年2月20日第39号 (通巻45号)  
オリーブの会  
大阪府豊能郡能勢町平通101-453  
tel/fax:072-737-9454  
mail: oribunokai@gmail.com  
facebook: oribunokai

## مجموعة الزيتون



### シオニストのガザ ジェノサイドを止めよう

シオニストの容赦ない攻撃と人道援助がシオニストに妨害され、ラファに追い詰められ飢餓に直面しているガザのパレスチナ人たちは、逃げ場のない絶望的な状態に置かれている。国際司法裁判所の1月26日の暫定裁定で、ジェノサイドを避けること、人道援助することなどを勧告したが、イスラエルは、停戦をせず、あくまで、ガザの戦争を継続している。そして、ガザの人々が追い詰められたガザ南部のラファに対して、爆撃だけでなく、地上侵攻をすると宣言している。もはや捕虜の解放は、侵攻の最大の目的ではなく、ハマスをガザから一掃すること、すなわちパレスチナの人々を追い出すことにあることがますます明らかになった。

シオニストは、住居を破壊された人々が避難していた学校、病院、国連施設を攻撃し、住民のインフラを破壊し、2万9千人を殺害し、7万人以上を負傷させている。行方不明者は、7000人に上っている。(2月19日時点)

さらに、12人のUNRWAの職員が10月7日の攻撃に参加していたと、証拠も示さず、主張し、UNRWAの解体を主張し、それに同調した欧米、日本などは、資金拠出を停止した。ただでさえ資金難にあったUNRWAの活動をさらに困難にさせ、それに依存しているガザの人々は飢えることになる。これは、シオニストのガザのパレスチナ人を飢餓によって虐殺する意図に同調するものであ

た。そして、ラファ、ケレム・シャロン検問所では、イスラエル軍が人道援助がガザに入ることを妨害している。また、飢餓のために援助のトラックに群がるガザの人々を狙撃し、死傷者までだしている。

そして、1月20日から国際司法裁判所では、イスラエルの占領を問題とする公聴会が開催され、パレスチナをはじめ52か国、3つの国際団体が証言を行っている。これは、2022年の国連総会決議に基づくものである。その中には日本も含まれている。

1月はじめに行われた南アフリカ共和国が訴えたのがガザのジェノサイドをとめるためのものであり、今回の公聴会は67年以降のイスラエルによる占領、アパルトヘイト支配を問うものである。

シオニストは、国際世論が停戦をもとめ、占領を終わらせることを呼びかけているにも関わらず、聞く耳を持たず、米国などが呼びかける2国家解決を否定し、明確にパレスチナ国家を認めないことを宣言し、イスラエルが直接的な支配を行うことを明言している。

そこには、共存のための交渉の余地のないことは明確である。

#### アルアクサ洪水作戦の意義

枕詞のように、ハマスの民間人虐殺を語ったうえでイスラエルの虐殺を述べるということが一般的に行われてきた。ハマスは果たして、民間人の虐殺を行ったのか？ これまでもシオニストの嘘を暴いてきたが、ハマスは明確に軍事目標と武装した民間人を標的にしたこと、殺すことではなく捕虜の獲得に目的を置いていると表明している。1200人のイスラエル人が虐殺されたとシオニストが主張するがかなりの部分がイスラエル軍がハマスとイスラエル人を一挙に殺していたことが明らかになっている。死者の多さ、また、入植地の破壊も、ハマスの小火器では行えないものである。また、ハマスのロケットもこれまで多数の死傷者が出たことはなかった。

### アルアクサの洪水作戦は、なぜ行われたか？

第一にイスラエルは、パレスチナ国家、難民の帰還の権利、自決の問題を宗教的対立にすり替えたこと。第二に、その文脈で、アルアクサを支配し、エルサレムのユダヤ化を進めてきたこと。第三に西岸を事実上併合の試みが、極右政権の成立以降強化され、イスラエル軍の軍事攻撃、入植者たちの破壊的な行動が強まったこと。第四にはガザ包囲封鎖の継続である。第五には、ベングヴィールによるパレスチナ人獄中者の虐待が強化されたこと。そして、国際的には米国が仲介するパレスチナ問題を消し去る『正常化』の動きであった。そのようにパレスチナが爆発する条件が整っていた。

それに対して、イスラエルは、無視していた。その意味で、アルアクサの洪水作戦は民族的な危機への対応であり、パレスチナ問題への国際的な無関心を打ち破るものであった。

10月7日以降のイスラエルの攻撃でガザは高い代償を払っているが、現在も抵抗は続いており、ガザの人々抵抗勢力を切り離すための無差別攻撃にもかかわらず、ガザの住民たちの民族的権利を守るための意思は低下していない。

反対に、イスラエルはいまだに彼らが言う目標をいまだに達成できていない。

国際的な停戦を求める声は広がりつつある。米国、イスラエルを含めて、停戦を求める声は、ドイツなどでの弾圧に関わらず、拡大している。何百万の人々が世界中で、停戦を求め、虐殺をやめることを要求するデモが広がっている。シオニストは反セム主義と決めつけているが、この抗議行動には、多数のユダヤ人も声をあげている。そして、イスラエル内でも停戦を求めて、ネタニヤフを批判する抗議行動が行われている。また、ユダヤ人パレスチナ人の協同した抗議デモも行われるように

なった。

ネタニヤフは、米国などの圧力のもとで、人道的な配慮で、市民の避難先をつくることによって、国際世論をごまかしたが、実際には、市民たちが北部に戻ることも認めず、避難する場所のない状態において、ラファを攻撃している。もともとの計画通りに、生き残ったパレスチナ人をシナイ半島に追いやろうとしている。そして、ここまでくれば、ネタニヤフ政権は、ジェノサイドを止めることはできないし、欧米も止めようとはしていない。すでに、極右派だけでなく、リクードの閣僚を含めて、ガザに入植地をつくることを祝う集会を行っている。彼らにとって、捕虜の解放よりも、ガザからパレスチナ人を一掃し、再び占領支配することが第一であり、さらに無差別攻撃は続いていこう。

ガザでの虐殺を進めている間に、西岸では、入植者たちが、暴力でパレスチナ住民を追い出し、入植地の拡大を図っている。占領軍は、パレスチナ武装勢力の掃討を口実に、無関係の住民までもを拘束し、拷問し、抑圧している。そして、家の破壊だけでなく、ブルドーザーを使って、道路やインフラまで破壊し、多数の検問所をつくり、住民の移動を妨害し、住民全体が生活できないようにしている。

人民戦線などの抵抗勢力は、ガザでの抵抗戦争と合わせて、西岸で蜂起を呼びかけ、イスラエルの喉元で反乱とイスラエルを追い詰めることを呼びかけている。戦線は、「戦闘をヨルダン川西岸地区を起点とする実体の中心部に移すことは、戦闘の国境を拡大することにつながり、実体を軍事的、経済的、人道的に疲弊させ、アル・アクサの洪水による戦闘が生み出した実存的危機と深い危機にさらに陥れることになる」と強調した。

そして国際的な世論を強め、イスラエルに圧力をかけ続ける必要がある。



**人民戦線：ヨルダン川西岸における入植者攻撃の激化は、シオニスト最高レベルの決定によって行われている**

2024年2月13日 | 22:00 (PFLPのHPより)

“人民戦線は、ヨルダン川西岸を起点に、戦闘をシオニスト実体の中心部に移すよう呼びかけた”

パレスチナ解放人民戦線は、ガザ地区におけるシオニストによる殲滅戦争と時を同じくして、ヨルダン川西岸地区の様々な地域で、入植者の群れによる、道路の寸断、土地の接收、家屋の焼き討ち、市民の射殺など、われわれの同胞に対する攻撃の激化が、シオニストの最高政治レベルの決定によって、占領軍の直接的な後援の下で行われていることを確認した。

戦線は、今日ガザの泥沼に浸かっているシオニストの敵は、その犯罪と入植者の犯罪をエスカレートさせ、パレスチナにおけるシオニスト・プロジェクトの主軸であり、パレスチナ人民に対するシオニストの政策と犯罪を煽る重要な動脈であり基本的な柱であると考えられている入植を強化することによって、ヨルダン川西岸における蜂起のいかなる状態も頓挫させようと努力していると付け加えた。

戦線は、ヨルダン川西岸地区のパレスチナ人民の人民的、国民的、公的な構成員が一致団結して占領に立ち向かい、入植者の犯罪に立ち向かい、入植者の攻撃から村や都市を守るための人民防衛委員会の結成に緊急に取り組む必要性と、この緊急の国家的使命に当局の治安サービスが参加する必要性を訴えた。そして、その武器を敵に向けるのであって、わが国民を抑圧するために向けるのではないのである。

戦線は、戦闘を、ヨルダン川西岸地区を起点とするシオニスト実体の中心部に移すことは、戦闘の国境を拡大することにつながり、実体を軍事的、経済的、人道的に疲弊させ、アル・アクサの洪水による戦闘が生み出した実存的危機と深い危機にさらに陥れることになると強調し、声明を締めくくった。今、必要かつ緊急の課題は、シオニストの敵に多大な人的・軍事的損失を与え続けているガザでの抵抗を支援するために、西岸戦線に火をつけることである。

パレスチナ解放人民戦線

中央情報部 2-13-2024



バセム・ナウム

電子インティファダ 2024年2月5日

パレスチナ人民に対するシオニストの侵略が5カ月を迎えるにあたり、一歩下がって10月7日のアル・アクサ洪水作戦とその余波の両方を評価することはおそらく有益だろう。

**10月7日は合法だったのか？ それは何を達成したか？**

シオニストの反応から私たちは何を学んだのでしょうか？ パレスチナ内外のすべての関係者、地元、地域、ま

たは世界の関係者にとって、どのような影響があるのでしょうか？

第一に、政治家や外交官から調停者やジャーナリストに至るまで、10月7日以前にハマスの指導部とコミュニケーションをとったすべての人が、「爆発は時間の問題だ」という明確で明白なメッセージを聞いたことを明確することが重要である。

理由？ イスラエルは、パレスチナ国家、パレスチナ難民の帰還の権利、パレスチナ人民の自決権を巡る政治紛争を、ユダヤ教（およびキリスト教）とイスラム教を対立させる宗教紛争に変えようとしていた。

## オリーブの会通信 第 39 号 ( 通巻 45 号 )

これらの政策には、最終的には取り壊されることを視野に入れて、アル・アクサ・モスクを完全に管理しようとするイスラエルの試みが含まれていた。エルサレムをユダヤ化し、パレスチナ人を家や土地から追放する数十年来の試み。そしてその不法入植地を正式に併合するとの脅迫とともに、ヨルダン川西岸広域を事実上併合した。

その中には、ガザ地区の継続的な包囲も含まれており、その下で沿岸部とその 230 万人が孤立し、投獄された。その中にはパレスチナ捕虜の虐待も含まれており、イタマル・ベン・グヴィル国家安全保障大臣の下で加速した。

そして最終的には、アメリカの隠れ蓑で、アラブとイスラム諸国を説得して、パレスチナ問題を解決せずに、パレスチナの権利を無視し、シオニストの実体との関係を正常化させ、それを純粋にイスラエル国内の懸念事項にする試みも含まれていた。

ハマス指導者らは耳を傾ける者にこれらすべての問題を伝えたが、誰も耳を貸さなかった。彼らは爆発の警告を空虚な脅威とみなしたのか、それとも。彼らはハマスが「抑止され」ており、主にガザでの支配を強化することに関心があるというシオニストの言い分を全面的に採用していた。あるいは彼らはシオニストの力に酔っていた。

ハマスやその他の抵抗勢力が主導したアル・アクサ洪水作戦は、国家的大義に対する明白かつ差し迫った危険への対応であり、パレスチナとその国民に対する地域的および国際的な無関心に対する反応であった。

10 月 7 日の先制攻撃がなければ、パレスチナの大義は忘れられ、完全に消去されていたかもしれない。

しかし、それは所期の目標を達成できたのでしょうか？

### 驚異的な回復力

議論する段階は 2 つあります。1 つ目は 10 月 7 日に始まり、10 月 7 日に終了しました。2 つ目はその後につき、今日まで続いています。

10 月 7 日の目標は完全に達成された。アル・アクサ洪

水は、イスラエルの無敵の軍隊と、地域と世界の隅々まで攻撃できる全知全能の諜報機関という神話を打ち砕いた。

これらすべては、単純で限られた手段、しかし確固たる信念と激しい決意を持ったほんの一握りの人たちによって行われました。

第二段階では、パレスチナ人民は非常に高い代償を支払った。しかし、パレスチナ人は自由で尊厳のある祖国への権利を深く信じています。

敵味方を問わずすべての観察者を驚かせた機知に富んだ抵抗とともに、彼らは抵抗を鎮圧し、ガザ住民を追放し、捕虜を回収するというイスラエルの計画を阻止した。

4 か月経った今でも、レジスタンス指導部がスキルと創意工夫で戦場をしっかりと管理し、敵軍に痛ましい打撃を与え続けていることは明らかだ。

10 月 7 日以降、230 万人のガザに 6 万 5000 トン以上の爆発物が投下され、国民に降りかかったあらゆる恐怖にも関わらず、イスラエルは人々の意志と土地への愛着を打ち砕くことはできなかった。

我が国の人々は、痛みや苦しみにもかかわらず、信じられないほどの回復力を示し、世界を驚かせています。

そして、ガザの捕虜を見つけるための東西のあらゆる技術的・諜報的努力にもかかわらず、敵はあらゆる試みに失敗している。イスラエル軍は捕虜の一部と、救助に來た人々を殺害することに成功したが、レジスタンスが定めた条件と期限を除いて家族の元に戻った捕虜は一人もいない。

### 核心的な質問は次のとおりです。次は何か？

私たちはまだ熾烈な戦いの最中にあり、結論を出すのは時期尚早かもしれません。しかし、すべての指標は 1 つの方向を示しています。次に起こることは 10 月 7 日以前と同じではないということです。

アル・アクサ洪水作戦とその後起こったすべては、国内、地域、国際レベルでのパレスチナ人民とその大義、そして敵とその将来に有利になるように、紛争の戦略的

条件を変えることになるだろう。

### 変化頂点で

民族レベルでは、我が国の国民はオスロの恥ずべき現実とその壊滅的な結果を克服する能力に対する活力と自信を取り戻しました。最も重要なことは、解放、帰還、そしてイスラエルの占領の解体の可能性が可能になっただけでなく、その可能性が非常に高まったことです。

その結果の一つは、1993年のオスロ合意で政治プロジェクトが失敗し、国家的災難をもたらした指導者が実権を握り続けることができないということだ。

侵略が始まって以来実施された世論調査は、この真実を裏付けています。私たちは、この戦闘の結果を基礎とし、この戦闘によって確立された新たな現実を照らしてパレスチナの国を民主的に再建するために、国内関係に新たなページをめくらなければなりません。

最も重要なステップは、パレスチナの政治制度とパレスチナ国家プロジェクトを構築し、過去数十年の変化を反映し、国民の願望、犠牲、政治経験、特にオスロの悲惨な経験を真に代表するものとなるようにすることである。

地域レベルでは、アル・アクサ洪水は根本的かつ戦略的な影響を及ぼしました。最も重要なことは、パレスチナ問題の消去で確実に終わるはずだった破滅的な「正常化」プロジェクトを混乱させたことだ。

10月7日の作戦は、イスラエルに支援と保護を求めている人々に、シオニストの実体もろく、自らを守ることさえできないほど弱すぎることを証明した。この戦いは、一方ではこの地域とその国民と、もう一方の側ではイスラエルとその統合の可能性との間に大きな溝を開きました。

この出来事の変化は、この地域での衰退の年月のためにほとんど死にかけていた人々の中に復活をもたらし、帰還、聖地の解放、そして自己決定への大きな希望を再燃させました。

ガザは、巨大な課題や障害にもかかわらず、イニシアチブと行動の優れたモデルを提示してきました。包囲されたガザでこれができるなら、なぜアラブ本土全体で

私たちがこの経験を繰り返すことができないのでしょうか？

これは間違いなく、政治的方向性や地理的位置に関係なく、この地域の人々が自分たち自身と行動と変化の能力をどのように見ているかに根本的な影響を与えるでしょう。

このように、ガザの血なまぐさい対立に対する公式の対応は、国家や国民の願望、そしてパレスチナの大義に対するアラブ国家の歴史的責任とは程遠いものであったため、この地域でアラブの春の新たなサイクルが始まるのが期待できる。

### 侵略を止める

国際レベルでは、この躍進は重要かつ戦略的であり、不可逆的なものでした。

第一に、パレスチナ問題は、シオニストがそれを葬り去ろうとしているにもかかわらず、世界中の何百万人もの人々にとって個人的な問題となっている。

世界は、西側諸国を代表するという主張や、自由、民主主義、人権の尊重という価値観とはまったく対照的な、この人種差別的なプロジェクトの現実を直接目の当たりにしました。むしろ、それは血なまぐさい捕食者であることを明らかにし、犠牲者の役割を果たし、何十年にもわたって人類を強奪しています。

この物語の変化の重要性は、イスラエルがその存続のための2つの主要な支援の柱、つまり物質的な強さ（軍事および経済的）とその正当性の国際的な受け入れに依存していることにあります。

我が国の人々とその抵抗勢力は最初の要因に対処しました。2つ目は10月7日の余波で劇的に崩壊した。

公式の国際レベルでは、戦いはまだ初期段階にある。この悪意のあるプロジェクトを創設し、シオニズム運動と帝国主義勢力の間の相互利益の枠組みの中で何十年にもわたって構築し育ててきた人々は、それが崩壊しそうになったとき、急いで救援に駆けつけた。

ただし、少なくとも重要な変化を観察することはできます。多くの国は、パレスチナ問題を消し去り、パレ

## オリーブの会通信 第 39 号 ( 通巻 45 号 )

スチナ人民を無視することは不可能であることを認識しています。

この紛争を解決し、パレスチナ人民の固有の権利を満たさなければ、誰も地域内外で安全と安定を享受することはできません。

敵であるシオニストに関して言えば、この戦闘とその影響により、政治的、社会的、イデオロギー的な面で深刻な内部分裂が深まりました。この戦いが続いている主な理由の一つは、翌日のことと崩壊の脅威を恐れて、イスラエル指導部が自らの行動の結果から逃れようとしていることである。

最も重要なことは、10月7日は、イスラエルの政治、安全保障、軍事の指導者、そして国民を指導し、安全を提供し、保護する彼らの能力に対するイスラエル国民の信頼に戦略的打撃を与えたことである。

レジスタンスとその指導者たちは今もしっかりと手綱を握っている。戦場では、敵を倒し、侵略を止め、私たちの愛するガザから撤退させるためにカバーすべき領域がまだ残っています。

同時に、国民を救出し、この人道的災害を緩和するための努力も続けられています。

国家政治レベルでは、私たちが10月7日以前の政治的文脈に戻そうとする人もいますが、それができないことは明らかです。レジスタンスも国民も、これまでの現状や、国民の多大な犠牲を、尊重しない結果を受け入れることはないでしょう。

ここで、現段階でのレジスタンスの2つの優先事項(レジスタンスは国家や調停者に伝えている)は、侵略を即時かつ包括的に終わらせることと、ガザ地区全体からすべての占領軍の撤退を確保することであることを指摘するのは有益かもしれない。そして侵略によって引き起こされた人道的大惨事に対処します。

最初のステップとしてこれら2つの目標をすぐに達成できない提案は受け入れられず、成功しません。

### 政治的プロセス

中長期的な政治プロセスは、捕虜の交換、包囲の解除、

占領によって破壊されたものの再建から始まり、後になって初めて開始することができます。

これに続いて、当初の国家計画の信頼性を回復する基盤に基づいてパレスチナ政治組織の再組織が行われ、シオニストによる占領を終わらせ、パレスチナ人の自決権を擁護し、独立したパレスチナ国家を樹立する政治プロセスで最高潮に達するべきである。エルサレムを首都とし、関連する国際決議に従って難民の帰還を確保する。

アル・アクサ洪水作戦は、我が国国民だけでなく、アラブ諸国とイスラム諸国にとっても、文明における主導権を取り戻す決定的な瞬間であり、戦略的機会となり、人類の今後を展望し、管理するための異なるモデルを提示しました。

西側諸国とその指導者と体制は、ファシズム、人種差別、そしてそれらが人類に及ぼす壊滅的な影響から人類を守ることに失敗してきました。

この機会を私たちの手から逃してはなりません。さもないければ、神が禁じられていますが、同じような瞬間が来るまで何十年も待たなければならないかもしれません。一極体制から多極体制、つまり複数の主体による体制への衰退による国際的な大規模な変革を目の当たりにするのと同じように、この戦いは我が国国民とその大義のための出発点となるべきである。

これは、私たちがその一員であるグローバル・サウスが、何世紀にもわたる植民地化、奴隷化、資源略奪、疎外を経て、その人々にふさわしい地位にまで前進したことによって特徴づけられるでしょう。

バセム・ナウム博士は元パレスチナ保健大臣であり、ハマスの政治局のメンバーである。彼はこれまでに、オーストラリアのABCネットワーク、英国のスカイニュース、ガーディアン、ミドル・イースト・アイ、アルジャジーラ、ユダヤ・デイリー・フォワードなどの複数のメディアに出演し、記事を掲載してきました。





## テク / 野蛮国家 - イスラエル

ガザ南部ラファの避難キャンプにいるパレスチナ人女性。(写真: マフムード・アジュール、パレスチナ・クロニクル)

2024 年 2 月 6 日の記事、解説 (パレスチナクロニクル)

ジェレミー・ソルト

平和的な選択肢は残されておらず、振り子はすでに「抵抗枢軸」によって戦われている戦争に戻り、今にも地域戦争に拡大する可能性がある。

ここから戻ることはできません。数万人のパレスチナ民間人が殺害され、その半数は子供であり、数千人が瓦礫の下で死亡し、数万人が生涯不具を負った。

これはハマスに対する戦争ではなく、民間人に対する戦争であり、10月7日の軍事攻撃は、パレスチナを完全に殲滅するために大量虐殺的な政治的・軍事的司令部が利用した口実である。

何千人もの子供たちが殺されました。他にも何千人もの人々が命を落とされました。彼らの損傷した手足は、病院では麻酔なしで切断されています。しかし、翌日にはさらに多くの人が殺されたり、負傷したりする。遠慮することはありません。子どもの大量殺害に対して国民の怒りは起きていない。

それどころか、ユダヤ系イスラエル人の大多数は自国の軍の活動を支持しており、多くの人が軍のさらなる前進を望んでいる。パレスチナ人は餓死しているが、イスラエルのデモ参加者はツァナ交差点からガザに届く少量の援助物資さえも妨害している。これは、エジプトからガザに到着する食糧・医療援助トラックの爆撃とは別のものである。

これはネタニヤフやギャラント、その他の政治的・軍

部のサイコパス / 社会病質者だけではなく、国民も同様である。彼らは皆、この血祭りに参加しています。

彼らは、何が起きているのか分からないとは言えません。たとえ自国のメディアが残虐行為の毎日の報道を抑圧したとしても、それを知るためにはインターネットやソーシャルメディアを利用するだけで済むからです。

子どもたちの虐殺はあまりにも衝撃的で、あまりにも卑劣なので、今後 2000 年間も忘れられることも許されることもないだろう。これはネタニヤフ首相のアマレク\*の行動です。これほどまでに墮落した国家が独自の死刑令状を書いている。

\*アマレクは、古代の中東で活動したセム系民族の一つで、聖書やその他の歴史文献に頻繁に登場します。彼らは主に紀元前 2 千年紀から 1 千年紀にかけての地域で活動しました。彼らは主にイスラエルとの関わりで知られており、旧約聖書においては、アマレクはしばしばイスラエルの敵として言及されています。

アマレク人は、イスラエルがエジプトからの解放後、シナイ半島を通過する際に攻撃したとされています。また、サウル王やダビデ王の時代にもイスラエルと戦いました。旧約聖書では、神がアマレク人を罰するためにイスラエルに命じ、サウル王にアマレク人を全滅させるように命じるエピソードも記述されています。

アマレク人の正確な起源や文化については、記録が限られているため完全に明確ではありませんが、彼らは古代中東の地域において一定の影響を持っていたと考えられています。ネタニヤフは、イスラエル兵を前に聖書のアマレクのくだりを引用し、ガザを消し去ることが使命であると述べたがネタニヤフ自身がアマレクであるといっている。

英雄は、圧倒的な不利にもかかわらず戦い続けるパレスチナ人の若者たちです。彼らは RPG で戦車を破壊したり、戦車に駆け寄って側面に爆発物を挟んだりしています。

プロパガンダビデオには、イスラエル兵が砂の上を走ったり、特に何も無い窓から発砲したりする様子が映っているが、2006年にレバノン南部で行ったように、ほとんどはミサイル攻撃に頼っている。

彼らはあえてトンネルに入る勇気がありません。彼らの軍司令部は勝利を主張しているが、ハマスと他の抵抗勢力は4カ月前と同様に強力に反撃している。

「ハマスの捕虜」とは、プロパガンダ目的で一斉検挙され、屈辱を与えられたのは民間人男性である。もしイスラエル人がハマスや他の戦闘員を大量に殺害していれば、彼らは遺体を公開しているだろうが、我々はまだ遺体を見ていない。

残虐行為は毎日新たなレベルに引き上げられています。数十人の民間人が虐殺され、手を後ろ手に縛られ、ネクタイにヘブライ語で書かれ、遺体はビニールのゴミ袋に詰め込まれ、瓦礫の下に捨てられた。

狙撃兵は、単なる射撃訓練に過ぎず、動く者は誰でも殺します。医師、看護師、患者に扮した殺人犯が、病院のベッドで眠っている3人の若者(1人は数カ月麻痺状態)を殺害する。彼らがテロ行為を計画しているという告発はグロテスクな嘘だ。

彼らのカムフラージュは四流の高校の遊びレベルであり、病院には彼らが制服を着て二階に上がって殺人を行うのを阻止する武器や武装した人が何もいないので、とにかく不必要です。

大学、学校、病院は破壊されます。ガザの古代文化遺産は、4か月にわたるミサイル攻撃で消滅した。人々が餓死する中、イスラエル兵は教室を破壊した子供たちを嘲笑し、採掘した建物が崩れ落ちるのを見て嘲笑した。ヨルダン川西岸でも子供たちさえ平気で殺しています。

ガザは異常事態ではなく、シオニズムのイデオロギーと1948年以来犯された凶悪犯罪と完全に一致している。この「新興国」は科学を利用して自らを技術野蛮国家に変えてきた。考え方は部族的で原始的であり、エレクトロニクスは世界で最も先進的である。だからこそ、10月7日のハマスのガザフェンス侵入は、パレスチナ人の血を流すことによってしか鎮められない衝撃と殺人的な

怒りを引き起こしたのだ。

ガザは、もし必要であれば、シオニズムが壊滅的に失敗した事業であるというさらなる証拠である。90%以上が非ユダヤ人である中東の一部にユダヤ人国家を樹立するという考えは最初から間違っており、決してその推進が許されるべきではなかった。

シオニズムは、2000年以上にわたって中東でユダヤ人が営んできた生活を台無しにしました。

それはパレスチナ人の生活を台無し、中東は恒久的な地域戦争状態に陥った。ガザとヨルダン川西岸のパレスチナ人をゲッター化し、その過程で自らをユダヤ人ゲッターに変えた。

リビアは失敗国家として描かれているが、失敗したのはリビアではない。空爆によって繁栄した国家をいわゆる破綻国家に変えたのはアメリカ、フランス、イギリスだが、これら三国の強盗行為にあるのでなければ、失敗の本当の原因はどこにあるのだろうか？ それに比べて、イスラエルは、独自の法律以外には何も従わないのけ者国家としての世界的地位に対して全責任を負っている。さらに言えば、国際法の外で生きているので、やりたい放題です。

イスラエルは国際法を尊重していないだけでなく、1947年のイスラエル創設を支援した機関である国連に対しても敬意を払っていない。国連は分割計画に書かれた条件を一度も遵守しておらず、実際に国連を危険な敵とみなしている。1948年以来パレスチナ人の生存を支援してきた組織であるUNRWAを破壊しようとする試みにおいて、私たちは現在このことを目の当たりにしています。

150人以上の国連職員を殺害し、国連学校を爆撃したイスラエルは、10月7日のハマスの軍事攻撃を支援したとして少数の職員を非難した。ガザで毎日行われている大量殺人を止めるために何もしなかった米国とそのキャンプは、支持者らは直ちにUNRWAへの援助を中止した。

ガザの人口がすでに飢餓に近づいていることを見て、これらの国々は現在、大量虐殺への共謀で非難されている。ベルギーが逆の方向に進み、実際にUNRWAへの支持を増やしたとき、イスラエルはガザ事務所を爆撃した。

報復として、ミサイル攻撃で UNRWA の保健センターも破壊した。

イスラエルが世界の支持を得ていた時期があったが、それは主に世界がそれ以上のことを知らなかったからである。しかし過去 50 年間で、世界はイスラエルが帝国によって埋め込まれたものであり、中東を分割し帝国の利益に奉仕するために中東のまさに中心部に打ち込まれた杭だったという真実に追いついた。

イギリスの保護がなければ、シオニストはパレスチナの地に足を踏み入れることができなかつたでしょう。世界中のユダヤ人コミュニティにとって、シオニストは未来のない狂信的な分裂集団のままであつたでしょう。

現在、ユダヤ人国家でない限り、イスラエルにとって受け入れられる平和の選択肢はなく、二国家でも一国家でもありません。南アフリカのシオニスト入植者アバ・エバンは、パレスチナ人は決して機会を失うことはなかったと語った。それは巧妙な線ではあつたが、訪れたあらゆる機会を無駄にしたのはシオニストだったという真実の逆転だった。

1960 年代のパレスチナ人は、すべての人のための 1 つの世俗国家への準備ができていました。エジプトのナセル大統領もイスラエルと交渉する用意があつた。その後数十年にわたり、PLO、米国、アラブ諸国はそれぞれ独自の平和提案を出してきたが、どれもイスラエルに寛大なものだったが、イスラエルが提案を無視するかもてあそぶか、パレスチナ人が受け入れられない「和平」条件を設定したため、すべて灰に帰した。

1990 年代の「和平プロセス」は、イスラエルが 1967 年に占領した領土への支配力を強化するための時間を稼いだけだった。パレスチナ人にとって、それは 1948 年以来最大の災害であり、壁と現在ガザで展開している大惨事に直接つながつた。さらに、19 世紀のロシアのユダヤ人入植地でのポグロムはせいぜい数日しか続かなかつたのに対し、ヨルダン川西岸の兵士や入植者によるポグロムは半世紀以上続いている。

平和的な選択肢は残されておらず、パレスチナ人が数十年前に誠意を持って結んだ外交路線も尽き、振り子はすでに「抵抗枢軸」によって戦われている戦争へと戻り、いつでも地域戦争に拡大する可能性がある。

日々の挑発によって、これがイスラエル政府の各勢力が望んでいることのように、ガザ戦争をより広範な戦争に包含し、数百万の命が犠牲になるかもしれないがネタニヤフ首相の首を救うことである。

1917 年、アーサー・バルフォアは中東に地獄のような問題を抱えさせました。年々悪化してきました。ガザは恐ろしいですが、この狂った国家は核兵器を保有しており、崩壊すれば他の国々もそれを連れて行くことができるため、ガザはまだ物語の終わりには程遠いのです。

パレスチナ人を救いたいと願うどころか、米国とそのキャンプ支持者たちは彼らを殺害した人々と肩を並べている。米国は殺害を継続できるように武器を提供している。彼らは皆、UNRWA への援助を削減することでパレスチナ人を飢えさせることに加担している。彼らは自衛の「権利」を理由に大量虐殺を正当化します。彼らはイスラエルの価値観を共有しているとさえ言います。彼らの共謀は、彼らも被告席にいることになるはずだ。

---

- ジェレミー・ソルトは、メルボルン大学、イスタンブールのボスポラス大学、アンカラのビルケント大学で長年教鞭を執り、中東現代史を専門としています。彼の最近の出版物の中には、2008 年の著書『The Unmaking of the Middle East』があります。アラブ諸国における西部無秩序の歴史（カリフォルニア大学出版局）。彼はこの記事に寄稿しました  
(パレスチナ・クロニクル)



ガザ南部のラファに逃れた避難民のテント



## 入植者植民地主義は「学術的な流行」ではない

これは、世界中の先住民コミュニティの過去と現在に傷を与えた真の政治プロジェクトです。

2023年11月20日月曜日、ガザ地区近くで装甲軍用車両の整備に取り組むイスラエル兵士たち [AP 写真 / オハド・ツヴィゲンバーグ]

ソムディーブ・セン

ロスキレ大学国際開発研究准教授

2024年2月6日発行(パレスチナクロニクル)

パレスチナ連帯活動家たちは、主流政治における自分たちの立場を主張し、イスラエル入植者の植民地計画の解体を要求した。しかし、これは「入植者植民地主義とは何ですか?」という非常に初歩的な疑問を引き起こします。

一部の評論家は、イスラエルに対する入植者の植民地主義というこの告発を「単なる反ユダヤ主義の別の形態」としてすぐに却下した。「入植者植民地主義」は左翼の学者や活動家が思いついた流行の学術理論にすぎないとほめかす人もいた。

しかし、入植者植民地主義は単なる学術的な流行ではありません。これは、世界中の先住民コミュニティの過去と現在に傷を与えた本物の政治プロジェクトです。

このプロジェクトの中心的な特徴は、入植者社会の設立のために先住民の人口を消去しようとする事です。イデオロギー的には、入植者にとって、先住民は明確な民族性や、彼らが住む土地に対する歴史に根ざした権利を持たないため、この抹殺は正当化され、避けられないものとみなされています。したがって、入植国家の文明的、技術的、軍事的優位性に直面したとき、「野蛮な」先住民社会は単純に降伏して「立ち去る」とほぼ予想される。

これは、アメリカの民間伝承における西部開拓者と先住民コミュニティとの間の衝突の描写に見られます。

彼らは通常、後者の死とともに終わります。私はブレトリア郊外にあるポーア人の開拓主義に捧げられたアパルトヘイト時代のフォールトレッカー記念碑でも同様の物語を目にした。そこにある展示物は、この白人入植者が未開の南部アフリカ後背地に「文明の光」をもたらしたものと称賛しています。

イスラエル・パレスチナも例外ではありません。過去のイデオロギーは、イスラエル建国の神話、つまりイスラエルが「土地のない民族のために、民族のない土地」に建てられたという神話に書き込まれました。シオニストの間で人気のスローガンは、「聖地」が未開の領土であるという思い込みを永続させるとともに、パレスチナ人を明確なアイデンティティをもった「民族」ではなく、したがってその土地に対する正当な権利を欠いていると特徴づけるのに役立った。

政治的シオニズムの父、テオドール・ヘルツルは、小説「アルトノイランド」(古い新しい国)の中で、現代のユダヤ人国家に対するユートピア的なビジョンを概説し、その中で次のように書いています。「建設する前に取り壊さなければなりません。」ここでも、パレスチナ人とその土地での彼らの存在やつながりのあらゆる痕跡は、入植者国家によって必然的に消去されるであろうというほめかしがなされている。

イスラエルの地理学者は、独自のパレスチナ地図を作成する際にも、パレスチナ人は「民族ではない」という理解に基づいて作業を行いました。彼らは「祖先の土地」に対する議論の余地のない権利を確信し、先住民パレスチナ人の存在の証拠をすべて完全に消去する方法でパレスチナの地図を再作成した。

10月7日のハマスの攻撃後、イスラエルの政治家がパレスチナ人を「人間の動物」と呼んでいるのを聞いた。彼らはまた、パレスチナ人がガザから「立ち去り」、他の場所に定住することも要求している。明らかに、入植者植民地時代の消去イデオロギーは今日も健在です。

しかし、入植者植民地主義は単なるイデオロギー的な勢力ではありません。この消去のイデオロギーは、先住民の生活と存在のすべての柱を実質的にひっくり返す取り組みを動機付けることがよくあります。

私たちは今日ガザでこれを目の当たりにしていますが、それは単に人命の壊滅的な損失という点だけではありません。大学や病院を含むあらゆる機関が標的にされていることを見れば、消去への衝動は自明のことだ。イスラエルのガザ戦争は、パレスチナ人がガザ地区での生存を維持できなくなるようにする取り組みであるように見える。

1948年のナクバとの類似点は紛れもない。パレスチナ人の存在を示すあらゆる証拠を消去しようとする組織的な取り組みがあったことが口述歴史と機密解除されたイスラエル政府文書によって明らかになった。イスラエルの軍事指導者で政治家のモーシェ・ダヤンも、次のように述べ、同様のことを認めた。「ユダヤ人の村はアラブ人の村の代わりに建てられた。あなたはこれらのアラブの村の名前さえ知りません。地理の本はもう存在しないのですから、私はあなたを責めません。本が存在しないだけでなく、アラブの村も存在しないのです。」もちろん、このような大量虐殺的暴力は、入植者植民地の状況では一般的であり、先住民人口を減少させている。しかし、先住民コミュニティの降伏は文化的虐殺の過程の結果でもあります。これには、先住民のキリスト教化を通じて、先住民の文化的アイデンティティと遺産を消去する上で、入植者の国の教会が積極的な役割を果たした方法が含まれます。カナダとオーストラリアの先住民族の子供たちを家族から引き離すことも含まれる。表向きの目的は子供達の「保護」だった。しかし、実際には、それは何世代にもわたる先住民族の子供たちの文化的アイデンティティを破壊することを目的とした「文明化」任務でした。

パレスチナ人もまた、文化遺産の破壊を目的とした入植者プロジェクトに直面している。これには、ガザ地区の遺跡を意図的に標的にすることが含まれます。市

民社会団体は、これは「空虚な意思表示」ではないと主張している。むしろ、それはパレスチナ人から「民族自決権の根幹を形成するまさに本質[すなわち文化]」を剥奪する試みである。パレスチナ料理をイスラエル料理として大規模に盗用することは、同様に、明確なパレスチナ文化遺産の重要な証拠を消去することになる。そして、イスラエル軍がオリーブの木を破壊したり盗んだりするとき、彼らは単に重要な収入源を攻撃しているだけではありません。彼らはまた、パレスチナの回復力の重要な象徴を盗んでいる。過酷な環境で成長しても実を結ぶオリーブの木と同じように、パレスチナの民族闘争も占領と包囲の過酷な状況にもかかわらず続いています。

結局のところ、今日ガザとパレスチナ全土で何が起きているかをよりよく理解するためのツールとして入植者植民地主義について考えることが重要です。それは部分的に、私たちが現在ガザで目撃しているさまざまな形態の消去を正当化し、合理化しているのは、入植者植民地国家の深く根付いた構造と制度であるという点で、私たちが目撃しているのは構造的なものであることを物語っている。しかし同様に、それはパレスチナを入植者植民地主義の世界的な歴史に結び付けるのにも役立ちます。この歴史は、米国、カナダ、オーストラリアなどの入植者国家がその立場で常に揺れ動いているように見える一方で、なぜ世界中の先住民コミュニティがパレスチナ人の権利の支持し、パレスチナ人と連帯してきたのかを説明するかもしれません。

ソムディーブ・セン

ロスキレ大学国際開発研究准教授

ソムディーブ・センは、デンマークのロスキレ大学の国際開発研究の准教授です。彼は『非植民地化パレスチナ：反植民地主義とポスト植民地主義の間のハマス』（コーネル大学出版局、2020年）の著者です。



野蛮人

文明人

# パレスチナ日誌

## 8月27日

- ・ジェニンの南、“殉教者の三角地帯”の村が占拠される
- ・ナブルスの南、カスラの町を攻撃する入植者たち
- ・アル=マズラア・アル=ガルビヤで入植者が市民を襲撃
- ・34週連続：ネタニヤフ政権に反対する数万人のデモ
- ・ヘブロン南部と東部で入植者が市民の車を襲撃
- ・ベツレヘム西部で占領軍と対立し、窒息した。
- ・トゥルカラム収容所襲撃の際、占領軍の銃弾により5人が負傷
- ・占領自治体はシルワンの町を襲う

## 8月28日

- ・ネタニヤフ首相、アル・アルーリを暗殺で脅迫：我々に危害を加えようとする者は誰でも代償を払うことになる
- ・クレナイカでの占領軍との対立による負傷者
- ・ヨルダン川西岸地区で負傷者（うち1人は重傷）と逮捕者
- ・占領軍海軍が漁船を襲撃、5人を逮捕
- ・占領軍がアル・イスサウィヤとシルワンの町を襲撃
- ・リビア... リビア外相とイスラエル外相の会談を各党が非難
- ・カラワット・パニ・ハッサン占領の嵐
- ・ナザレ... 発砲事件で市民3人負傷、市議候補含む

## 8月29日

- ・アラブとアメリカの外交官リビア事件は他国との国交正常化を困難にする
- ・ヨルダン川西岸地区の市民37人を対象とした逮捕キャンペーン
- ・占領軍、シルワンの若者2人を逮捕

## 8月30日

- ・イスラエル警察、ウンム・アル・ファームの家屋を取り壊す
- ・占領軍はワディ・アル・シク・コミュニティを襲撃し、住民を攻撃した。
- ・占領軍は、ハワラ作戦の実行犯として告発されているハレド・カルーシャ四人の家の爆破を決定した。
- ・シルワン-占領軍情報部が解放囚とその兄弟を逮捕
- ・ラマツラ東部のベティン村を占領軍が襲撃
- ・フワラ検問所で女性市民が逮捕される
- ・「アルバイダル組織ベドウィンのコミュニティは恐ろしい人口戦争と戦っている
- ・占領軍はアル・イスサウィヤで逮捕キャンペーンを実施し、解放された囚人をエルサレムから追放した。
- ・占領軍がヨルダン川西岸地区の市民21人を逮捕
- ・ヨルダン渓谷... 入植者たちが羊飼いを襲い、道路をフェンスで囲む
- ・占領軍、ヘブロン南部でパレスチナ人を射殺
- ・ガザ、国境での帰還行進再開を決定
- ・占領軍はヘブロン西部の農地をブルドーザーで破壊し、石の鎖を取り壊した。

## 8月31日

- ・ベイト・ウンマル北部のサファで窒息死傷者が出た。
- ・占領軍、ヘブロン南部で突っ込み攻撃を行った“容疑者”の父親を逮捕
- ・占領軍がカラディヤ検問所で若者を逮捕
- ・エルサレム... 入植者を刺したとして、若い男が占領軍の銃弾で殺害された。
- ・アズンで若い男性が占領軍の銃弾により負傷した。
- ・少年の殉教の地で-入植者たちがエルサレム人を襲撃
- ・ハレド、マフムード、サディームの三つ子は会えない... 占領軍の銃弾はハレドを暗殺し、遺体を押収した。
- ・ヨルダン川西岸で逮捕者。占領軍によるナブルス襲撃で数十人が負傷
- ・ナブルス襲撃でイスラエル兵4人が爆発物で負傷
- ・ウォッチ - ラマラ近郊で兵士が襲撃を受け死傷。

## 9月1日

- ・サルフィット西部のカラワット・パニ・ハッサンで、占領
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区での襲撃で武器弾薬の入手先を公表
- ・ガザの農民が国境付近のデモで包囲の解除を要求
- ・家が包囲されたアカバの町を占領軍が襲撃し、4人の若者が負傷した。
- ・トゥバス北部のアカバで、若い男性が占領軍の銃弾により死亡した。
- ・占領軍がヘブロン市民を逮捕
- ・エルサレムとガザのハマスに連帯するデモ
- ・ガザ東部で占領軍の銃撃により市民9人が負傷
- ・占領軍によるカフル・カドゥム行軍襲撃で7人が負傷

- ・ベン・グヴィールへの決断にもかかわらず-シェイク・ジャラーのデモでパレスチナ国旗を掲げる

## 9月2日

- ・占領軍がファクアアの若者を逮捕
- ・アル・アウジャの町を占領した。
- ・占領政策に抗議し、ジャバル・ムカベールのいくつかの学校でストライキが行われた。
- ・4人が逮捕された。警察がベツレヘムの麻薬密売組織を急襲

## 9月3日

- ・カフル・カドゥムの占領軍との対立で2人が金属弾で負傷
- ・入植者がカスラの町を襲撃した際の負傷者
- ・エリコ北入口の検問所で子供と青年を逮捕する占領軍
- ・入植者、ラマツラ西部でオリブの木を伐採
- ・ネタニヤフ政権に反対するデモが35週連続で更新された。
- ・占領軍、ナブルス南部フワラ近郊で青年を暴行
- ・占領軍がエルサレムのバブ・ハッタの若者を逮捕
- ・オーファーの囚人たちは、セクションを閉鎖し、食事を戻すことにした。
- ・イスラエル、ヨルダンとの国境フェンス建設に着手
- ・ジェニン県ヤバド町、ザバダ村、ザババ村の占領の嵐

## 9月4日

- ・占領軍がヘブロン南部のマスフェルヤッタで農業用トラクターを押収
- ・ヨルダン川西岸地区での負傷者と逮捕者
- ・武力衝突... ジェニン収容所襲撃で負傷者と逮捕者
- ・教育エルサレムの学校図書没収は、教育を受ける権利の継続的侵害である

## 9月5日

- ・アル=アクサ-バブ・ハッタ地区から若い女が逮捕される
- ・サウジアラビア、イスラエル閣僚の会議出席ビザを拒否
- ・“ハアレツ”2人の女性兵士がパレスチナ人女性に子どもの前で全裸を強要した
- ・暴力と犯罪に抗議するストライキが48の領土で実施された。
- ・占領軍がサルフィット西部の「ローラー」を接収
- ・占領軍がエルサレム市民3人を逮捕
- ・トゥルカラム大隊占領軍の車両を数台爆破し、目標に正確に命中した

## 9月6日

- ・シン・ベト：パレスチナ人3人を小包と武器の密輸容疑で逮捕
- ・シルワン=ビン・ガーフィルがラス・アル・アムード地区を襲撃
- ・イスラエル最高裁、合理性論議の取り消しに対する請願の審議延期を拒否
- ・占領軍がエルサレム北西部で2人の青年と少女を逮捕
- ・アル=サワナでの解体命令 - アナタでの取り壊しとブルドーザー建設
- ・ヨルダン川西岸地区での逮捕
- ・アル=アクサ・シャリヤ学校の生徒から「パレスチナ・カリキュラムの本」を没収
- ・占領軍がジェニン・キャンプを襲撃、“お尋ね者”を逮捕
- ・2日目-占領軍は包囲網を強化し、ガザからのあらゆる輸出を禁止した。
- ・イスラエル知識省がエルサレムの学校認可を撤回すると脅迫
- ・カラワット・パニ・ハッサンにおける作業と建設中止を通告する23通達
- ・ムスタラビム部隊、イツサウィヤの若者を逮捕

## 9月7日

- ・母親と妹を逮捕 - エルサレムでの刺傷事件の実行犯とされる少年の家を襲撃
- ・国連専門家、イスラエルに囚人ムハンマド・アル=ハラビの正義の実現を求める
- ・国連、イスラエルにヘブロンでの女性5人強制連行の調査を要請
- ・デイシェ・キャンプで負傷者... ヨルダン川西岸地区での逮捕
- ・ガザ-2014年の攻撃で被害を受けた人々がUNRWA本部前でデモを行う
- ・入植者、ベツレヘム東部の羊飼いを襲撃
- ・シルワンアル・プスタン地区での取り壊し警告
- ・イスラエルヨルダン川西岸の道路拡張を決定
- ・ベツレヘム東部のザアタラ原野を襲撃する入植者たち

## 9月8日

- ・アメリカは大統領の演説を憎悪に満ちたものだとし、ただちに謝罪するよう要求した。
- ・シルワン - ザイトゥーン一家、自らの手で「商業施設」を取り壊す
- ・エル・アル、ネタニヤフ首相のニューヨーク行きを拒否
- ・アル・アクサ・モスクのバブ・アル・ラーマ礼拝堂が占拠される
- ・占領軍、トゥルカラムの若者2人を逮捕
- ・ジェニン占領軍はヤバド、アラバ、カフィラットを襲撃し、軍事検問所を設置した。

- ・激しい移動... アイン・アル・ヒルウェ・キャンプで激しい衝突
- ・カフル・カドゥムの行進に対する占領軍の弾圧による金属弾による負傷と窒息死

## 9月9日

- ・トゥルカラム東部で占領軍と対立し、窒息した。
- ・逮捕と弾圧 - シェイク・ジャラーのデモでパレスチナ国旗を掲げる人々を追及する勢力
- ・アイン・アル・ヒルウェ・キャンプでの停戦合意
- ・イスラエルの新聞ワシントンはサウジアラビアに原子力発電所を設置し、遠隔操作することを検討している。
- ・アル・アクサの門の近くでタルムードの儀式を行う入植者たち。

## 9月10日

- ・アイン・アル・ヒルウェ・キャンプの衝突で2人が死亡、11人が負傷
- ・カルキリヤの東にあるカフル・カドゥムの町を占領した。
- ・カラエル・アル・ラウズで入植者が市民宅を襲撃
- ・ベツレヘム南部で入植者の襲撃を受け、市民が骨折を負った。
- ・ヨルダン渓谷北部の入植者襲撃で市民が負傷
- ・占領軍、ラマツラ周辺の軍事行動を強化
- ・数万人がネタニヤフ政権に反対するデモを36週連続で実施
- ・エリコで対立... ヨルダン川西岸で逮捕者

## 9月11日

- ・テルアビブ中心部でデモ隊の群衆を轢き殺す車
- ・ドルズ共同体のリーダーがネタニヤフ首相に建設危機の解決なくして、抗議行動は別の顔を見せるだろう
- ・占領軍がヨルダン川西岸地区の市民20人を逮捕
- ・ガザ地区南部のラファ海で2人の漁師が逮捕された。
- ・負傷者2名 - アカバト・ジャブル・占領軍がキャンプを襲撃し、2人の若者が逮捕された。
- ・アイン・アル・ヒルウェ・キャンプの衝突で死者5人、負傷者52人
- ・イスラエル当局、アル・アラキブを221回目の取り壊し
- ・エルサレム - 占領警察は、授業終了後に2人の学生を逮捕した。
- ・司法改革」反対派がイスラエル警察と衝突

## 9月12日

- ・6人のエルサレム人がアル・アクサ・モスクから追放される

## 9月13日

- ・ナブルス北西部、入植者の襲撃で市民が負傷
- ・占領警察、ラマツラ北部でパレスチナ人青年を暴行
- ・ナブルス南部で銃撃攻撃、入植者2人が負傷
- ・ガザ東部の分離フェンス付近での対立
- ・占領軍、ナブルス南部の検問所でトゥバスの市民を逮捕
- ・召喚と強制送還 - 駐在ナフィサ・クワイスの自宅を襲撃
- ・窒息死 - ヨルダン川西岸での対立と逮捕
- ・イスラエル、パレスチナ自治政府への武器供与を否定
- ・ジェニン西部の検問所で市民を逮捕する占領軍
- ・ガザ国境での銃弾による傷と窒息
- ・エルサレムのダマスカス門付近で暴行を加え逮捕する占領軍

## 9月14日

- ・オスロ合意記念日のモスクワワシントンは和平プロセスを混乱と停滞に陥れた
- ・占領軍がヨルダン川西岸とガザの閉鎖を決定
- ・アイン・アル・ヒルウェ・キャンプでの衝突で死傷者
- ・占領軍がエリコ北部のアル・アウジャの倉庫6棟を取り壊すと脅迫
- ・タルトゥースとハマの地方に対するイスラエルの攻撃により、兵士2人が死亡、6人が負傷した。
- ・ヨルダン川西岸地区での逮捕
- ・ラファ東部で2人逮捕 - カーン・ユニ東部で占領軍が催涙ガスを発射
- ・調査のためエルサレム知事を召喚
- ・占領軍は、ガザに向けられたミサイル用資材の密輸を阻止したと主張している。

## 9月15日

- ・英国労働組合連合会、イスラエルとその入植地へのボイコット支持を確認
- ・占領軍、ヨルダン川西岸とガザの国境閉鎖を発表
- ・世論調査で、パレスチナ人の大多数がオスロ合意の破棄を望んでいることが確認された。
- ・ワシントン、バーレーンと安全保障協定を締結
- ・アイン・アル・ヒルウェ・キャンプでの新たな停戦合意
- ・逮捕者と負傷者 - アブ・ディスの町への大規模侵攻

- ・難民合同委員会、UNRWA が配布した行動規範を拒否
- ・ハマス UNRWA 行動規範は異常と逸脱の価値を呼びかける
- ・数百の警告... ユダヤ人の新年を祝う前夜に5,000人の警察が出動
- ・彼は172日間ストライキを続けた。占領軍は囚人アワウダの釈放を決定
- ・占領軍はカラディヤ検問所を閉鎖し、エルサレム近郊での手続きを強化する。
- ・占領軍、車に爆弾を仕掛けた疑いで若者3人を逮捕
- ・アル=アワウダ、172日間のハンガーストライキから解放される
- ・負傷者 - ガザ地区東部で、占領軍がデモ隊に銃弾や催涙弾を撃ち込んだ。
- ・大統領も参加 - キューバで「77カ国・地域 (G77)・中国」首脳会議が発足

## 9月16日

- ・占領軍、エルサレム市民を逮捕
- ・イスラエル軍機がガザ地区東部を爆撃
- ・ガザ国境での占領軍の銃撃により12人が負傷
- ・ナブルス北西部で入植者に襲われた市民が負傷した。
- ・ファクアアで占領軍と対立
- ・当組合は、占領軍がガザでジャーナリスト仲間を標的にしたことを非難する。
- ・イスラエル治安当局は連休中“警戒態勢”数十回の警告と数千人の人員配置
- ・占拠はベイトでの対立の中で家屋を襲撃し、数十軒の家屋を捜索する
- ・占領軍、エルサレム北部の軍事封鎖検問所で大学生を逮捕
- ・占領軍がユダヤ人の祝日を口実にイブラヒミ・モスクを閉鎖
- ・トゥルカラム占領軍がシュワイカを襲撃、監視カメラを押し取
- ・占領軍、トゥルカラム近郊で銃撃を受けたと発表

## 9月17日

- ・ヘブロン中心部の“テル・ルメイダ”で入植者の襲撃を受け、若い男性が負傷した。
- ・ヘブライの新年 - 数十人の入植者がアル・アクサを襲撃
- ・アル=アクサの敷居で - 入植者がトランペットを吹き鳴らし、アル=ムラービトウンが立ち向かう
- ・占領軍、バブ・アル・シルシラ近郊で市民3人を逮捕
- ・アラブ議会アル・アクサの襲撃とイブラヒミ・モスクの閉鎖は和平のチャンスをつぶす
- ・祖先の墓の近くで宗教儀式を行う入植者たち
- ・ガザ地区東部で占領軍が5人を負傷させた。
- ・エラフ紙サウジアラビア、イスラエルとの国交正常化交渉中止を米国に通告
- ・ベイト・フリックでの占領軍との対立

## 9月18日

- ・入植者の襲撃を撃退したクスラの人々
- ・ラファ海で漁師親子が占領軍の銃弾により負傷
- ・ベイト・フリックでの占領軍との対立
- ・マズモリアの検問所で、刺殺の疑いで進駐軍が若者を射殺した。
- ・占領軍、ナブルス東部の2軒の家屋を取り壊す
- ・占領軍、エリコ北部の建設中の家を取り壊す
- ・占領軍がガザ国境でデモ隊に発砲
- ・占領軍がハリス村の駐車場を取り壊す

## 9月19日

- ・占領軍がハムラ検問所で2人の若者を逮捕
- ・サウジアラビアがイスラエルにメッセージ：パレスチナ国家なしで紛争を解決する方法はない
- ・取り壊しに備えて - 占領軍は“エリ”作戦の実行犯の家の寸法を測る

## 9月20日

- ・占領軍がアナブ検問所を通過中の大学生を逮捕
- ・ガザ地区東部国境での衝突で若者が死亡、4人が負傷した。
- ・入植者が市民を土地から追放し、彼のテントと羊のテントを取り壊す(ヘブロン南部)
- ・イスラエル特殊部隊がトゥルカラムキャンプから青年を誘拐
- ・ジェニンで占領軍の銃弾に倒れた殉教者
- ・ヨルダン川西岸地区での逮捕
- ・占領軍、カラワット・バニ・ハッサンで作業・建設中止通告23通を出す
- ・テルアビブ：テロ未遂容疑の若者を逮捕
- ・カラワット・バニ・ハッサン襲撃で女性教師5人が窒息

## 9月21日

- ・健康ジェニンで占領軍の銃弾により3人が殉職、30人が負傷
- ・アカバト・ジャブル・キャンプの襲撃で若者が死亡、負傷者、逮捕者が出た。
- ・数十人が窒息死。ガザ東部での平和行進に対する占領軍の弾圧で4発の銃弾を受ける



気にしないで、ガザ  
壁の向こうの希望が火の中を忍び寄る  
彼の決意によって、痛みはハリケーンのように彼の中に  
植え付けられた

彼は誠実な信仰で自分を高めたが、反逆者ようになった  
沈黙にもかかわらず不動、破壊にもかかわらず不動

私たちは服従しません、私たちはひざまずきません、私  
たちは服従しません、私たちはひざまずきません  
私たちは服従しません、私たちはひざまずきません  
屈辱にはノー、屈辱にはノー

ガザよ、気にしないで誇りを持ってください

そしてあらゆる包囲を無視して、ああああああああ  
ああ、すべての包囲、すべての包囲

私たちは痛みを気にしません  
日々の措置が私たちを癒してくれる  
それは今日の傷を敵に戻す

私たちは服従しません、私たちはひざまずきません、私  
たちは服従しません、私たちはひざまずきません

私たちは服従しません、私たちはひざまずきません  
屈辱にはノー、屈辱にはノー

ああ、ガザよ、あなたはなんて誇りの象徴だったんだろ  
う

いや、それでも、ああああああああああああああ  
ガザよ、気にしないで誇りを持ってください  
そして、あらゆる包囲の挑戦、ああああああああ

YOUTUBEで「La tubali Ya Gaza」で検索すれば聴くことができます

# おいしいパレスチナ

## アラビア米の作り方は？

アラビア米とは何ですか？

アラビア米または中東米料理は、アラブ世界全体で非常に一般的な料理です。ギー、少量のバターまたは油で炊いた短粒米に春雨麺を加えたものです。短粒白米を選んでください。カルローズライス、ほとんどの場所で簡単に見つかる2種類。お米を炊く前に15分ほど浸水させるのがポイントです。このステップは、調理プロセスと、お米をべたべたではなくふわふわにするのに非常に役立ちます。

計量カップ - ふっくらとしたご飯を作るには、お米の量と水の量を計ることが重要です。お米と水は同じ計量カップで計量してください。

調理鍋 - 米の量に応じて、大きな鍋または小さな鍋が必要です。

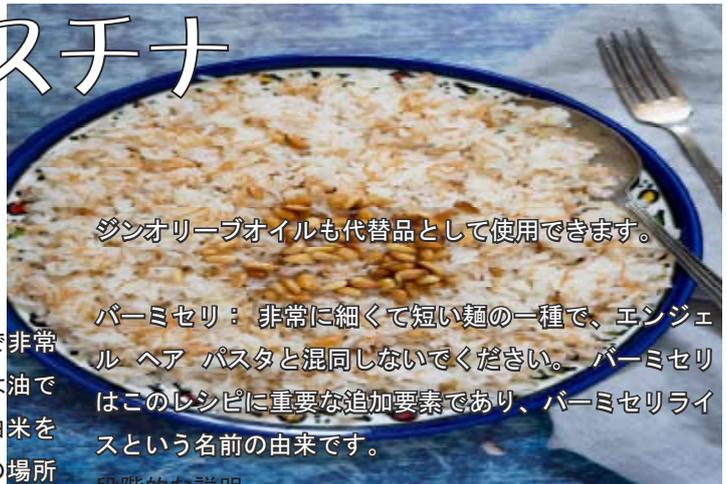
材料

完全な材料、寸法、手順は、この投稿の下部にあるレシピカードに記載されています。

アラビア米の材料

短粒米と長粒米：お米の種類によって、出来上がりに大きな違いが生じます。このレシピでは、エジプト米ブランドまたは短粒タイプの短粒米を使用しています。これらは中東の食料品店で見つけることができます。

ギーまたはバター：ギーまたはバターは、ご飯に特別な風味を与えることができます。植物油やエキストラバージン



ジンオリーブオイルも代替品として使用できます。

パーミセリ：非常に細くて短い麺の一種で、エンジェルヘアパスタと混同しないでください。パーミセリはこのレシピに重要な追加要素であり、パーミセリライスという名前の由来です。

段階的な説明

アラビア米漬け

ステップ1：お米を研ぎ、15分間水に浸します。

アラビア米 - 浸漬後

ステップ2：15分間浸水させたお米

ローストパーミセリ

ステップ3：中火で、パーミセリをギーと一緒に黄金色になるまで炒めます。

焼きパーミセリと鍋ご飯

ステップ4：水に浸した米を研いで、きつね色のパーミセリを加え、塩を加えて全体を混ぜます。

焼きパーミセリと水をかけたご飯

ステップ5：沸騰したお湯を加え、沸騰したら蓋をして弱火で10分ほど煮ます。

炊き込みパーミセリとご飯

ステップ6：ご飯が炊き上がったら、10分間放置し、フォークでほぐします。このプロセスにより、べたつきを防ぐことができます。

プロのヒント

炊飯前にお米を10～15分間浸すことが非常に重要です。

そうでないと、水と米の炊飯比率が異なります。

お米と水は同じ計量カップを使いましょう。

米を15分以上浸漬すると、より多くの水が観察され、

## 守ろう！オリーブの木を カンバのお願い



### オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。  
パレスチナの農民の土地を守る闘い、  
生活を守る闘いを支援します。  
集まった基金は、パレスチナ農業  
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番

名称：オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)：〇九九店 (099)

預金種目：当座

口座番号0303500



2月17日イエメンのサナでのガザに連帯するデモ



2月17日大阪でガザでの停戦を求めるデモ



2月18日東京でのガザに連帯するデモ



「ユダヤ教はシオニズムを拒否する」2月11日ニューヨークのデモで

## 今号の内容

シオニストのガザ・ジェノサイドを止めよう	1
10月7日は何を達成したか?	3
テクノ野蛮国家	7
入植者植民地植民主義は『学術的流行』ではない	10
パレスチナ日誌	12
パレスチナの愛した歌	14
おいしいパレスチナー	15
トピック	16



2月9日大阪で、外務省分室への申し入れ



1月30日岸田首相が米国ユダヤ人委員会(AJC)と会見



2月1日UNRWAへの資金拠出停止を撤回をもとめ会見するNGO